

## 鹿屋の食について 魅力を感じていることは

**市長** 本日は鹿屋の食に関わる4名の方に、それぞれの立場からお話を伺います。まずは、どのようなところに食の魅力を感じているか教えてください。

**新美さん(消費者)** 県外から移住してきて感じるのは、食を作る方との距離が驚くほど近いことです。マルシェなどで生産者さんと直接お話をする機会が多く、その思いや人柄に触れるたびに、食材をより一層おいしく、ありがたく感じられるようになりました。また、食の安全への意識の高さにも助けられています。親が子どもに食べさせるものは、なるべく安全なものを食べさせたい。そう願う私にとって、無農薬や減農薬栽培に取り組む方が多く、それが手頃な価格で手に入る鹿屋の環境は本当にありがたいです。

**市長** 学校給食でも一部、有機野菜を使用しており、すでに提供を行っている小松菜に加えて、今年からはブロッコリーやキャベツ、

じゃがいもの提供を行います。農業が盛んな地域だからこそ、様々な品目や栽培方法で食を提供できるのも、一つの魅力だと思います。

**隈崎さん(食イベントの企画者)** 食のバラエティの豊富さが、鹿屋の魅力の一つではないでしょうか。様々な形で食を提供して下さる方々がいることで、バラエティに富んだ食事を食べることができるので、生産者や食品加工者、飲食店などの豊富さも魅力だと感じています。

**和田さん(生産者)** 鹿屋は農・畜・水産物が全て揃う産地であり、新鮮な食材を提供できる総合力の高さが強みだと思います。また、生産者と消費者に限らず、食品加工者や食をPRする方々との距離も近いと感じています。以前は作る人は作って、どこに売っているかもわからないという状況でしたが、それが「見える化」できてきて、鹿屋全体の食に対する総合力が上がってきていると感じています。

**出水田さん(食品加工者)** 「食のまち」と語れるくらいのレベルの

高さはあると思っています。県外のバイヤーからもそういった声をいただくことが多いです。一方で、良いものがまだ知られていないという部分もあり、そういったところはこれからもっとブラッシュアップしていく必要があると感じています。そのためには、今日集まっている生産者や食品加工者、イベント企画者などが手を取り合って、協力していくことが大切ではないでしょうか。

## 今後のブランディングは?

**市長** 鹿屋の食のどういったところにフォーカスして、今後ブランディングを行っていくべきでしょうか。

**新美さん** 鹿屋のお土産は、いいものがたくさんある反面、すぐに何がいかパツと思いつかず、選ぶのに時間を要してしまうことがあります。鹿屋といえはこれ、といったお土産のアピールがもっとあれば嬉しいです。

**出水田さん** 食が豊富であるが故に何が特産品なのか、県外の人か

### Location

\_ltree coffee リナシティ  
かのや店(大手町1-1)



消費者  
新美 彩加 さん

おおすみハマルシェ  
実行委員長 隈崎 和代 さん

鹿屋市長  
中西 茂

三和物産 株式会社  
常務取締役 和田 彰 さん

株式会社 サカ十カケル  
代表取締役 出水田 一生 さん

# 新春対談 鹿屋の食を語る